

事例タイトル	グループホームと就労継続支援 B 型事業所を利用している事例
相談経過の要約	<p>白石 太朗さん（両親との 3 人家族）は、1 歳の頃から、「一人遊びの多さ」「落ち着きの無さ」がみられ、1 歳 6 ヶ月、3 歳児の健診で発達について指摘される。健診後、両親は医療機関を受診し「発達障害の疑いと」説明を受けたが、受け止め切れなかった。3 歳で幼稚園入園し、「集団活動への関心の少なさ」「癩癩」等を指摘され、相談室を利用し、医療機関の助言により、5 歳から児童発達支援を週 2 回利用した。幼児期の特徴は、集団遊びでは遊びの内容やルールを理解が十分できず、自分勝手に振る舞い、他児とのトラブルから癩癩になり、一人遊びがみられた。集団活動に関心はもつが、誘われるのを待つなど、自信の無い姿がみられた。日課は理解しているが、全体指示は分からないようで、個別に説明が必要だった。また、手順通りに行うことや、一番になることに固執するなどの特徴がみられた。</p> <p>小学、中学の時、相談室は白石さんに自信の無い仕草から、放課後等デイサービスの利用を進めた。両親は学習面ではどうにか付いていること、少ないが友達との交流があることから放課後等デイサービスは利用しなかった。</p> <p>高校卒業後、パソコンに興味があるということで、情報処理の専門学校に入学。入学しても授業中、講師の人が何を言っているのかなか理解できなかった。補講等を行い、丁寧に教えてもらい、何とか卒業をする。友人は一人、二人はいたが、自分の趣味の話になると、会話はできるが、他の話になるとついていく事が難しかった。</p> <p>専門学校卒業後、求職活動を 2 年ほど続けるがなかなか就職が決まらなかったもので、その後はアルバイトをするものの、仕事についていけずに、離転職を繰り返していた。アルバイト先では、「何度教えてらわかるんでしょうか」と言われたことが何度もあり、時折叱責されることもあった。また「返事だけは良いですね」と嫌味を言われたことで、嫌な思いをしたと話をしている。また「体の使い方がおかしい」と指摘されたこともあるとのこと。</p> <p>20 代前半で、自分に自信がなくなり、自室にいることが多くなった。心配した母親が、精神科を受診を勧め、受診をし、「広汎性発達障害」と診断される。当初は通院も行ったり行かなかったりで、安定しなかったが、1 年半くらいたって安定して通院に行けるようになった。そのころから、本人はできれば働いて、自立した生活を送りたいと精神科のソーシャルワーカーに相談すると、相談室に相談して福祉サービスも検討したらどうかと、紹介され、相談室に相談に行く。</p> <p>相談室では本人は「働いて自立した生活を送りたい」と話してはいるが、働くことについては「自分が何に向いているのかわからない」ということと、「急に働くには自身が無いので、まずは自信をつけたい」、「3 年後くらいには一般就職をしたいと思う」ということで、まずは就労継続支援 B 型事業所に通所をしながら、働くための準備を行うこととなった。また、自立した生活については両親も本人のこれからのことを考えると、「家にいるよりも自分で生活する経験をした方が色々身につくので</p>

	はないか」ということで、本人に一人暮らしを提案する。本人は「一人暮らしはしたいが、いきなり一人暮らしは何もしたことが無いので不安がある」ということで、グループホームを提案され利用してみるということになった。
年齢・性別・家族構成・家族状況・現在の居住歴	年齢 26 歳 性別 男性 家族構成 父：会社員 母親：パート職員。
手帳・区分	精神保健福祉手帳 2 級、区分 3
生活歴	【生活歴】 A 市で生まれ育つ。 アルバイトを転々として、仕事をするに自信がなくなり、求職活動をあきらめている状況。 【病歴】 26 歳の時に心配した母親と一緒に精神科受診。昼夜逆転していて、主治医から眠剤を処方されていた。また、急に落ち込むことがあるために、頓服を処方されている。眠剤は最近処方されていないが、朝起きられないことが多々ある。
経済状況	親から月 10,000 円のお小遣いをもらっている。
相談に至る経緯	病院のソーシャルワーカーから相談室を相談されたことが経緯
望んでいる暮らし	本人の希望は「できる限り両親には迷惑をかけたくはない」「自分のことは自分でできるようになりたい」「将来はグループホームから出たい」と思っているが、「朝中一人で起きることができない」「掃除や洗濯など身の回りのことを自分でするのが苦手」「お金の管理が苦手」と話している。働くことに関しては「3 年後くらいには働いていたい」、「今は働くことには自信が無いので力をつけたい」「どんな仕事が自分に合っているかわからない」「パソコンは得意だと思うが、仕事に結びつくかわからない」と話している。
本人の状況と最近の様子	本人は、自分から話しかけるのは苦手と感じている。服装は親が選んで買ってきてくれており、自分で選んで購入したことはない。お金の方は親からお小遣いをもらっているが、時折、使いすぎてしまうことがある。相手の話は「はい。わかりました」と答えるが、理解ができていないことがある。
そのほか	父親、母親共に協力的。本人のことを心配している。